



TERUMO LETTER



人は1個の細胞を作る。
そこに再生医療のヒントがある!!

人にやさしい 医療をめざして

心筋再生に取り組むテルモ

ちょっとしたすり傷は、およそ1週間で元通りの皮膚に再生し、また肝臓は半分以上切っても1~2ヶ月で元の大きさまで回復します。もともと人は体の細胞の大部分に再生する力を備えているのです。テルモはこうした人の再生能力に着目し、心筋再生の事業化に取り組んでいます。

人は、たった1個の細胞が、遺伝情報を受け分裂と成長を繰り返して完成した細胞の集合体です。また、体内には、ケガや病気に備え、特定の組織に成長する細胞をいたるところに持っています。ただし、再生能力にも限界があり、重症のケガや脳神経・心筋(心臓の筋肉)などに損傷を受けた場合は元通りに再生することはできません。そこで、自然の再生が難しいケガや病気に対し、新しく組織を作れる細胞を採取して人工的に培養し、移植する治療法が試みられています。

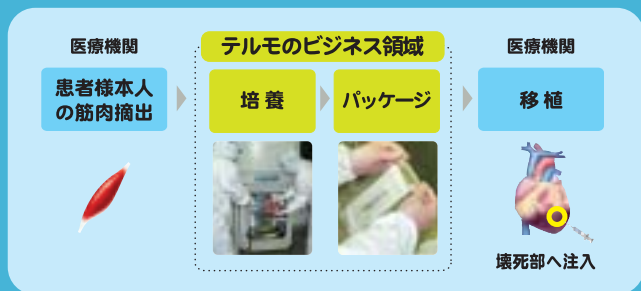
急速に進歩する再生医療

やけどをした皮膚や事故で傷めた軟骨の再生医療はすでに実用化段階にきています。また、血管や臓器を再生する研究のほか、最近では、目の細胞から角膜を再生したり、骨を再生し身長を伸ばすなど様々な応用研究が行われています。さらに、脳神経からも再生医療能力を持つ細胞が発見され、アルツハイマーなど治療不可能と考えられていた脳神経の再生治療も可能になることが期待されます。



テルモは世界初の心筋再生の事業化を目指します!!

これまで、脳神経などと同様、壊死した心筋の再生は不可能でした。そのため、重症心不全の治療法では心臓移植しかありませんでした。しかし、テルモは、太ももなどから採取した筋肉に含まれる骨格筋芽細胞（筋肉に成長する細胞）を体外で培養し、心筋の壊死部に移植する治療技術の開発に着手しました。この治療法は、患者様自身の細胞を培養するので、免疫拒絶反応や感染の問題がなく、深刻なドナー不足の状態に悩む心配もなくなります。テルモは、この世界初の心筋再生事業を日本で2008年にスタートさせる予定です。



再生医療は難病治療に道を開き、ドナー不足や移植後の拒絶反応といった問題の解決にもなります。未来の医療への実用化は、もうそこまで来ているのです。





② 腹膜透析液、血糖自己測定器、電子体温計など

糖尿病ケアシステム、腹膜透析システム、在宅酸素などが順調に売上を伸ばし、前期比で11.6%増加しました。



<血糖自己測定器>

26,302 百万円

生活医療商品群
13.1%

③ 注射器類、臨床検査器具類、高カロリー輸液剤、血液バッグなど

国内では、安全機構付医療機器やプレフィルドシリンジなどが売上を伸ばしました。さらに、海外での売上も堅調で、前期比1.9%増加しました。

ホスピタル商品群
56.1%



<プレフィルドシリンジ>

112,556 百万円

心臓・血管領域商品群
30.8%

人工心肺システム
(人工血管 含)
13.5%

汎用医療器
36.9%

61,766 百万円

カテーテルシステム
17.3%

医薬品類
11.9%

輸血関連
7.3%

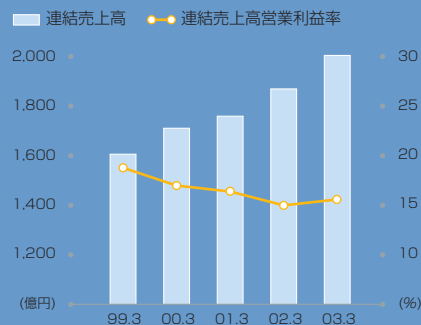
④ 血管造影用カテーテル、PTCA拡張カテーテル、人工心肺システム、人工血管など

カテーテルシステムや人工心肺システムが好調に売上を伸ばしました。さらに、新規の人工血管事業が売上に寄与し、前期比16.3%増加しました。



<人工血管>

連結売上高及び連結売上高営業利益率



※事業区分については、従来「医療器具類」、「医薬品類」、「高度医療用器具類」、「その他」の4区分でしたが、第88期中間期より事業経営区分に沿った「ホスピタル商品群」、「心臓・血管領域商品群」、「生活医療商品群」の区分へ変更いたしました。



Topix

トピックス

② 【通過性に優れたテルモPTCAカテーテルRX-1「Ryujin」を発売(3月6日)】

狭心症・心筋梗塞などの治療に用いるテルモPTCAカテーテルRX-1(愛称「Ryujin」)を発売しました。PTCAはバルーン(風船)が先端についた細い管(カテーテル)を足などの血管から詰まっている部分に挿入し、バルーンを膨らませて血管を押し広げる治療法です。現在日本では年間約15万症例のPTCAが行われていますが、「Ryujin」は、細く曲がりくねった血管や完全に閉塞した難しい症例などでも、柔軟でスムーズにカテーテルを病変部に到達させることができるように、カテーテルの先端部にらせん状の溝加工を施しています。



PTCA拡張カテーテル

③ 【総合ビタミン剤を一剤化した高カロリー輸液剤「フルカリック」を発売(1月8日)】

総合ビタミン・糖・アミノ酸・電解質を3室に分けてひとつのバッグに配合した高カロリー輸液剤「フルカリック」を田辺製薬(株)と共同開発し、発売しました。高カロリー輸液剤は、直接血管内に身体にとって必要な栄養を点滴補給するもので、その際にはビタミン剤の混合が不可欠です。これまで予めビタミンを入れた製剤は、ビタミンの効力が落ちるなどの問題により困難でしたが、この度、製剤技術と容器を工夫することで、総合ビタミン剤を一剤化することに成功しました。これにより、総合ビタミンの配合忘れ、異物混入などの医療事故防止や、医療従事者の作業負担の軽減にも役立ちます。



高カロリー輸液剤

④ テルモメディカルプラネックスを設立

2002年6月、研究開発センターの敷地内に、先端的な医療技術の開発と普及を目的にテルモメディカルプラネックスを設立いたしました。

テルモメディカルプラネックスは、医療機関と企業が一体となり、先端医療分野での商品や技術の開発を行ったり、医療従事者の方に当社が開発した商品を実際にご使用いただくトレーニングの場を備えております。

開設以来、多くの医療関係者にご利用いただき、大変ご好評を頂いております。





Financial data | 連結決算概要

② 連結貸借対照表

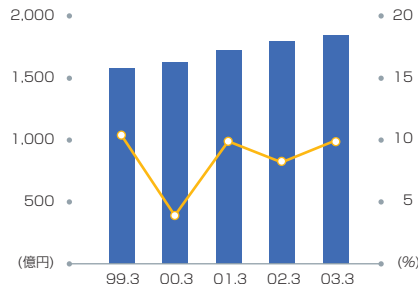
前期：2002年3月31日現在
当期：2003年3月31日現在

[単位：百万円]

科目	前期	当期
(資産の部)		
I 流動資産	135,978	131,909
現金及び預金	32,725	31,613
受取手形及び売掛金	60,034	57,191
たな卸資産	36,800	34,993
その他	7,069	9,071
貸倒引当金	△652	△959
II 固定資産	148,757	156,274
1.有形固定資産	119,480	113,420
建物及び構築物	46,990	46,269
機械装置及び運搬具	35,674	33,096
土地	24,164	23,812
その他	12,650	10,242
2.無形固定資産	7,829	22,759
3.投資その他の資産	21,448	20,094
投資有価証券	7,608	6,897
その他	13,840	13,197
資産合計	284,736	288,184
(負債の部)		
I 流動負債	82,422	78,653
支払手形及び買掛金	20,486	19,763
短期借入金	19,896	28,126
1年内返済長期借入金	46	537
その他	41,991	30,224
II 固定負債	22,391	25,006
長期借入金	55	6,322
退職給付引当金	20,405	16,780
その他	1,930	1,903
負債合計	104,813	103,659
(少数株主持分)		
少数株主持分	68	61
(資本の部)		
I 資本金	38,716	38,716
II 資本剰余金	52,103	52,103
III 利益剰余金	99,180	114,740
IV その他有価証券評価差額金	88	△642
V 為替換算調整勘定	△2,409	△4,001
VI 自己株式	△7,825	△16,452
資本合計	179,854	184,463
負債、少数株主持分及び資本合計	284,736	288,184

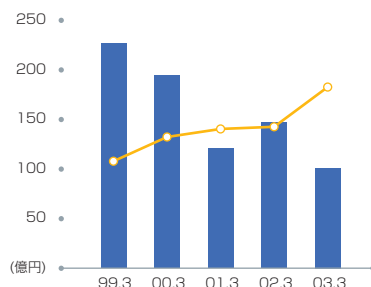
② 株主資本及びROE

■ 株主資本 ○ ROE



② 設備投資額及び減価償却費

■ 設備投資額 ○ 減価償却費



設備投資について

国内では、新設を進めていた富士宮工場のプレフィルドシリンジと輸液剤製造設備が当期に竣工しました。今後のプレフィルドシリンジの普及とビジネスの拡大を見据え、幅広い薬剤の製品化を行うためプレフィルドシリンジ専用開発棟の建設にも着手しました。

一方、海外では、フィリピン工場や中国の杭州工場への製造設備投資を継続的に進め、低コストで安全性の高い製品の供給体制を進めています。その結果、当期の設備投資額は101億円となりました。

② 連結損益計算書

前期：2001年4月1日～2002年3月31日
当期：2002年4月1日～2003年3月31日

[単位：百万円]

科目	前期	当期
I 売上高	187,082	200,625
II 売上原価	96,816	101,980
売上総利益	90,265	98,644
III 販売費及び一般管理費	62,227	67,346
営業利益	28,038	31,298
IV 営業外収益	2,985	1,140
V 営業外費用	1,002	2,378
経常利益	30,021	30,061
VI 特別利益	86	8,600
VII 特別損失	5,304	5,155
税金等調整前当期純利益	24,802	33,505
法人税、住民税及び事業税	14,236	16,215
法人税等調整額(△減算)	△3,886	△862
少数株主利益(△損失)	11	△3
当期純利益	14,441	18,155

② 連結剰余金計算書

前期：2001年4月1日～2002年3月31日
当期：2002年4月1日～2003年3月31日

[単位：百万円]

科目	前期	当期
(資本剰余金の部)		
I 資本剰余金期首残高	52,103	52,103
II 資本剰余金期末残高	52,103	52,103
(利益剰余金の部)		
I 利益剰余金期首残高	86,635	99,180
II 利益剰余金増加高	14,441	18,155
当期純利益	14,441	18,155
III 利益剰余金減少高	1,895	2,595
配当金	1,792	2,501
取締役賞与	93	81
監査役賞与	10	13
IV 利益剰余金期末残高	99,180	114,740

② 連結キャッシュ・フロー計算書

[単位：百万円]

科目	前期	当期
営業活動によるキャッシュ・フロー	28,566	36,825
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,419	△31,721
財務活動によるキャッシュ・フロー	△21,053	△5,977
現金及び現金同等物の期末残高	32,725	31,613

売上高について

国内売上高は、医療事故防止への意識の高まりから、安全機構付医療機器やプレフィルドシリンジなどが順調に売上を伸ばしました。さらに、カテーテルシステム、人工心肺システム、生活医療商品群といった主要戦略商品の売上が増加したことにより、前期比5.9%増の1,272億円となりました。

また、海外売上高は、カテーテルシステムや人工心肺システムといった高付加価値商品が引き続き堅調であったことに加え、昨年11月に買収した人工血管事業の寄与もあり、前期比9.7%増の734億円となりました。

この結果、連結売上高は前期比7.2%増の2,006億円となり、過去最高を更新しました。

キャッシュ・フローについて

当期の営業活動によるキャッシュ・フローは、営業活動が堅調に推移したことと、企業買収に伴い発生した連結調整勘定の償却額が増加したため、前期に比べ83億円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の売却や営業譲渡による収入があったものの企業買収により、支出額は前期に比べ163億円の増加となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前期に続き自己株式の取得や社債償還を実施しましたが、企業買収資金の調達により、支出額は前期に比べ151億円の減少となりました。



Financial data | 個別決算概要

② 個別貸借対照表

前期：2002年3月31日現在
当期：2003年3月31日現在

[単位：百万円]

科目	前期	当期
(資産の部)		
I 流動資産	122,143	108,553
現金及び預金	27,614	23,024
受取手形及び売掛金	57,085	51,975
たな卸資産	23,523	21,992
その他	14,325	12,233
貸倒引当金	△405	△672
II 固定資産	174,201	186,090
1.有形固定資産	91,578	87,108
建物・構築物	36,731	36,296
機械及び装置	22,393	20,707
土地	22,803	22,585
その他	9,649	7,519
2.無形固定資産	2,112	2,408
3.投資その他の資産	80,509	96,573
投資有価証券	7,255	5,509
関係会社株式	49,832	70,933
関係会社出資金	3,818	3,818
関係会社長期貸付金	5,972	3,324
その他	13,630	12,988
資産合計	296,344	294,643
(負債の部)		
I 流動負債	74,859	66,297
支払手形及び買掛金	19,012	18,926
短期借入金	18,660	22,590
その他	37,187	24,780
II 固定負債	21,409	21,511
長期借入金	—	5,000
退職給付引当金	19,848	15,975
その他	1,560	536
負債合計	96,269	87,809
(資本の部)		
I 資本金	38,716	38,716
II 資本剰余金	52,103	52,103
III 利益剰余金	116,993	133,109
IV 其他有価証券評価差額金	88	△642
V 自己株式	△7,825	△16,452
資本合計	200,075	206,834
負債・資本合計	296,344	294,643

② 個別損益計算書

前期：2001年4月1日～2002年3月31日
当期：2002年4月1日～2003年3月31日

[単位：百万円]

科目	前期	当期
I 売上高	149,047	154,749
II 売上原価	76,454	79,629
売上総利益	72,592	75,119
III 販売費及び一般管理費	47,450	49,246
営業利益	25,141	25,873
IV 営業外収益	4,181	2,009
V 営業外費用	669	1,620
経常利益	28,654	26,262
VI 特別利益	42	8,598
VII 特別損失	5,287	1,450
税引前当期純利益	23,409	33,409
法人税、住民税及び事業税	13,874	15,258
法人税等調整額(△減算)	△3,612	△560
当期純利益	13,148	18,712
前期繰越利益	18,645	29,323
中間配当額	896	1,111
中間配当に伴う利益準備金積立額	89	—
当期末処分利益	30,808	46,924

② 利益処分

前期：2001年4月1日～2002年3月31日
当期：2002年4月1日～2003年3月31日

[単位：百万円]

科目	前期	当期
当期末処分利益	30,808	46,924
(利益処分額)		
配当金	1,389	1,104
取締役賞与金	81	127
監査役賞与金	13	20
次期繰越利益	29,323	45,672

株主の皆様には格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社、第88期(2002年4月1日~2003年3月31日)の決算の概要につきまして、ご説明申し上げます。

当期は、昨年4月の薬価や特定医療材料の償還価格(公定価)の改訂など、大変厳しい環境でありましたが、主要戦略商品の売上が好調であったこと、および全社的なコスト削減への取り組みに努めた結果、売上高、利益ともに過去最高を更新しました。

また当期は、昨年9月の米国開発ベンチャーとの心筋再生技術に関する提携や、11月の英国人工血管メーカーの買収など、将来の高収益体質構築のための経営施策を積極的に進めてまいりました。

当社は21世紀のグローバル企業を目指す指針として「ユニークな輝く技術で、人にやさしい医療を実現します」というビジョンを掲げております。このビジョンの実現を目指し、国内トップブランドとしてのポジションと、高い成長性、収益性を維持していくために、2004年度を最終年度とする中期計画「Pro³(プロキューブ)」に基づき、積極的な事業展開を行っております。

・ **プロフィット**: 事業構造の高付加価値化

高収益、高成長分野である「生活医療事業」および「心臓・血管領域事業」につきましては、積極的な経営リソースの投下を行い、成長のスピードアップを図ります。また安定成長分野である「ホスピタル事業」は、医療事故防止、病院経営の効率化に寄与する高付加価値商品を提供することにより、収益性の向上を図ります。

・ **プロダクト**: オンリーワン商品の開発

先端医療分野での開発競争がますます激しくなる中、幅広く世界の技術のシーズを求め、他社と差別化の図れるユニークなオンリーワン商品を開発してまいります。

・ **プロフェッショナル**: カンパニー制導入による精鋭化

昨年7月に社内カンパニー制を導入し、それぞれの分野での事業戦略を強力に推進していくための体制を整備しました。これにより、各専門分野での精鋭化を図り、利益の最大化に向け、果敢に取り組んでまいります。

なお、当期末の利益配当金につきましては、1株につき5円50銭とさせていただきます。中間配当金とあわせ年間配当金は、1株につき11円となります。

今後とも全社一丸となって業績の向上に努めてまいりますので、皆様には引き続きご支援賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

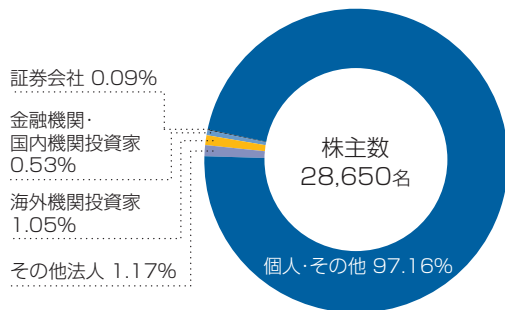
和地 孝



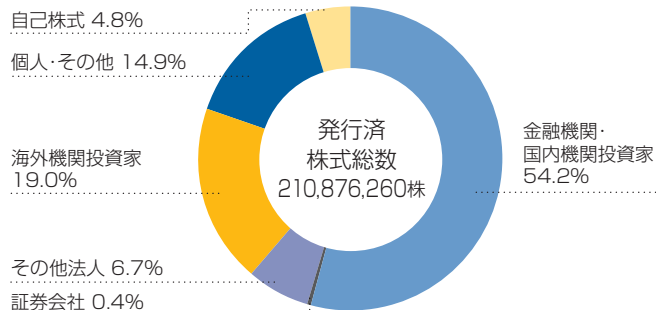


Stock Information 株式情報

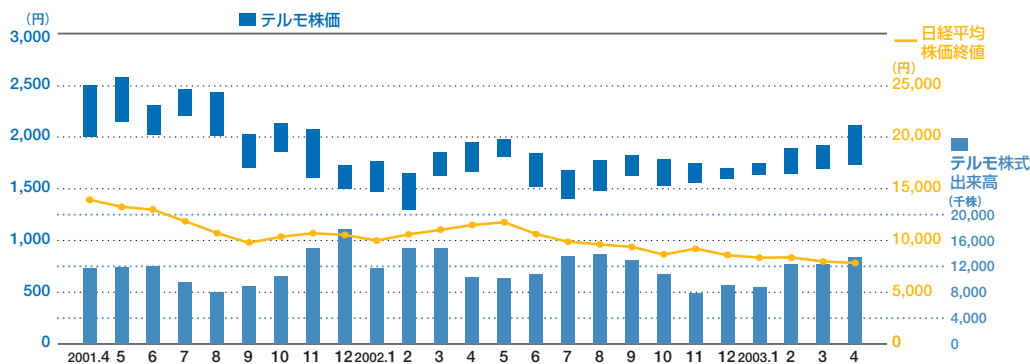
株主数別状況



株式所有者別状況



株価チャート



大株主10社	(単位:千株) (単位:%)	
	持株数	議決権比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	17,936	8.9
第一生命保険相互会社	9,806	4.9
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口	8,904	4.4
安田生命保険相互会社	7,258	3.6
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	6,257	3.1
東京海上火災保険株式会社	6,000	3.0
株式会社東京三菱銀行	4,765	2.4
株式会社みずほコーポレート銀行	4,675	2.3
UFJ信託銀行株式会社信託勘定A口	4,568	2.3
三菱信託銀行株式会社	3,831	1.9

※当社は自己株式10,028千株を保有しておりますが、議決権がないため、上表より除外しております。

発行する株式の総数 500,000,000株

発行済株式の総数 210,876,260株

期末株主数 28,650名

③ 会社概要 (2003年3月31日現在)

設立 1921年9月17日
 資本金 38,716,355,747円
 社員数 8,749名(単体4,126名)
 事業内容 医薬品、栄養食品、血液バッグ、
 各種ディスポーザブル医療器具、
 人工心肺システム、カテーテルシステム、
 腹膜透析関連、血糖測定システム、ME機器・
 電子体温計等の医療用機器の製造・販売

事業所紹介

本社 東京都渋谷区
 研究開発センター 神奈川県中井町
 富士宮工場 静岡県富士宮市
 愛鷹工場 静岡県富士宮市
 甲府工場 山梨県昭和町
 医器研社 埼玉県狭山市

国内販売拠点

札幌、盛岡、仙台、新潟、宇都宮、水戸、大宮、川越、千葉、松戸、東京、
 東京第二、多摩、横浜、湘南、松本、静岡、名古屋、津、金沢、京都、
 大阪、北大阪、神戸、堺、岡山、広島、高松、松山、徳島、高知、福岡、
 北九州、大分、熊本、鹿児島、宮崎、沖縄

③ 役員 (2003年6月27日現在)

代表取締役社長	和地 孝	取締役 上席執行役員	松村 啓史	執行役員	梅津 親生
代表取締役 副社長執行役員	高橋 晃	取締役 執行役員	三村 孝仁	執行役員	知久 一雄
取締役 専務執行役員	對田 恒雄	取締 役	野々山 徹	常任監査役(常勤)	谷 辰郎
取締役 専務執行役員	久呉 高博	執行役員	多田 健治	常任監査役(常勤)	神部 悠三
取締役 常務執行役員	原 八郎	執行役員	上杉 潔	監査役	佐野 榮三郎
取締役 常務執行役員	三浦 滋	執行役員	小熊 彰	監査役	杉崎 文男
取締役 常務執行役員	武 菊夫	執行役員	二宮 正吾		
取締役 常務執行役員	中尾 浩治	執行役員	高木 達夫		
取締役 常務執行役員	松村 光雄	執行役員	宮口 勝彦		

(注) 1. 取締役野々山徹氏は、商法第188条第2項第7号ノ2に定める社外取締役であります。
 2. 監査役佐野榮三郎および杉崎文男の両氏は、「株式会社
 の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18
 条第1項に定める社外監査役であります。

海外生産拠点

テルモメディカル社(アメリカ メリーランド州)、
 テルモヨーロッパ社(ベルギー ブラバント州/イギリス マージーサイド郡)、
 テルモカーディオバスキュラーシステムズ社
 (アメリカ ミシガン州、カリフォルニア州、メリーランド州、
 マサチューセッツ州/メキシコ タマウリパス州)、
 テルモハート社(アメリカ ミシガン州)、
 バスケテック社(イギリス グラスゴー)
 泰爾茂医療産品(杭州)有限公司(中国 浙江省杭州)、
 テルモフィリピンズ社(フィリピン ラグナ州)、
 テルモペンボール社(インド ケララ州)

海外販売拠点

[欧州]
 テルモヨーロッパ社、ローマ支店、マドリッド支店、英国支店、
 ベネルクス支店(ベルギー)、北欧支店(スウェーデン)、
 ラボラトワールテルモフランス社、テルモドイツ社、
 バスケテック社(イギリス、ドイツ)

[米州]
 テルモメディカル社、テルモラテンアメリカ社、トロント事務所、
 バスケテック社(アメリカ)
 テルモカーディオバスキュラーシステムズ社、
 テルモメディカル・ド・ブラジル社、テルモメディカル・メヒコ社

[アジア]
 テルモコリア社、台北、シンガポール、テルモタイランド社、ハノイ、
 テルモインドネシア社、クアラルンプール、オーストラリア、
 ドバイ、チェンナイ、テルモマーケティングフィリピンズ社、香港、
 上海、北京、広州、



Information

株式についてのご案内

決 算 期	毎年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年決算期の翌日から3ヵ月以内に開催します。
利益配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
基 準 日	毎年3月31日 ※その他必要がある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告して設定します。
公 告 掲 載 新 聞	東京都において発行する日本経済新聞
名 義 書 換 代 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同 連 絡 先 (郵便物送付・電話照会)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話:03-5391-1900(代表)
同 取 次 所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
1 単 元 の 株 式 の 数	100株

お知らせ

- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-86-4490で24時間承っておりますのでご利用ください。
- 配当金を郵便貯金口座へお振込することができます。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。

テルモ株式会社 (証券コード: 4543)

〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷二丁目44番1号
TEL.03-3374-8111 (代表)
URL <http://www.terumo.co.jp/>

⑩ TERUMO、テルモはテルモ(株)の登録商標です。
Ryujinはテルモ(株)の商標です。
フルカリックは田辺製薬(株)の登録商標です。